

5. 四賀地区における新旧住民の協働による持続可能な地域づくりを目指して

松本市地域づくりインターン第1期生・四賀地区担当 丸山 裕也

はじめに

本稿は、筆者が松本市地域づくりインターンシップ戦略事業において活動地域とする長野県松本市四賀地区を事例地として取り上げ、農山村地域における持続可能な地域づくりを目指していくうえでの取り組みからの分析と考察、また今後の展望について記す。

1. 問題意識

(1) 本研究の背景と目的

現在、わが国は、超少子高齢型人口減少社会を迎えており、東京圏への一極集中型の人口流出により、地方では人口減少・少子高齢化による地域の将来を担う若手の人材確保が困難となっている。

その中でも、中山間地域や農山村地域においては、人口減少・少子高齢化問題を背景に地域コミュニティや生活基盤の崩壊もしくは消滅といった危機であり、集落機能が低下した限界集落と言われる地域が増加している。限界集落とは、「高齢化と過疎化の進展により、65歳以上の高齢者が半数を超え、共同体としての維持が限界になりつつある地域のこと」であるが、都市部、農村部のどちらにおいても、プライバシー意識の高まりや地域への愛着や帰属意識の低下、また隣近所との付き合い

を好まないことにより、人と人とのつながりが希薄化し、地域コミュニティの形成が築きにくくなり、地域づくりに取り組むうえでの壁となっている。都市部・中間地域・過疎地のコミュニティの課題について分類してみると以下の表ようになる。

私が地域づくりに取り組む松本市四賀地区においてもまさに中間地域や過疎地における現状と同様のコミュニティの課題と直面している。

四賀地区の人口は平成29年3月時点で4,707人であり、四賀村発足当時の昭和30年には約9,600人いた。また、松本市と合併した平成17年の12年前には約6,000人いたが、年々減少を続けている。また、高齢化率は平成28年3月時点で40.6%と松本市35地区中4番目に高い。そういった人口減少・少子高齢化が四賀地区の喫緊の課題であり、いかにして将来を見据え、持続可能な地域づくりを目指していくかを考えていかななくてはならないだろう。

そのような中でも、近年、価値観やライフスタイルの多様化により、かつてのような物質的、経済的な豊かさよりも、豊かな自然環境や美しい景観、人とのつながりなど精神的な豊かさを求めて田舎へ移住する都市部の人々が増えている。実際に私が四賀地区で活動する中で、多くの移住者と出会った。しかしながら、移住者と元々四賀で暮らす人々とのコミュニティが築けていないように感じ、地域住民から聞いたニーズとして、「四賀にはI・Uターン者が

	都市部	中間地域	過疎地
地域コミュニティの現状	人口は多く経済活動は活発だが、長期定着人口や居住地の昼間人口は少なく、地縁的なつながりや共通の価値観は希薄か皆無。 ただし、特定目的を有したコミュニティはできやすい。	地縁的なつながりは比較的強いが、都市化が進み、地縁的なつながりは徐々に希薄化。一部では、経済活動の安定に苦慮し、過疎化が進行。	農林漁村が多く、地縁的なつながりは比較的強いが、地域経済の縮小、人口減少・高齢化によりコミュニティの維持が困難な場合もある。

(参照:「地域コミュニティの現状と問題」総務省)

たくさんいるが、関わる機会もなく、どういう人がいて、どんなことをやっているのかわからない。カフェみたいなお店を開いているらしいが、機会があれば行けるが、いきなりだと行きづらい。」といった話を聞き、I・Uターン者と地元生まれ、地元で暮らす人々とのつながりを図る機会や場づくりとしてワークショップやイベント開催を通じて新旧住民の交流の場を築いてきた。そのような事業への取り組みから見えた地域の課題や成果を示す。

2. 事業の概要

(1) 今年度の取り組みについて

今年度においては、地域づくりインターンシップ戦略事業の中で、主に四賀地区地域づくり協議会事務局として事業・会議等へ参加しながら、住民同士をつなぐ役割や地域づくりに取り組む諸団体の事業を補助する活動を行ってきた。

地域づくり協議会とは、松本市が地域づくりを推進する上で、各地区独自で地域づくりに取り組むための仕組みである緩やかな協議体のことであるが、この組織は、各地区の団体・機関等をはじめ、誰でもが加入でき、地域課題の解決に向けて住民が主体となって意見を交わす場となっている。しかし、四賀地区の場合、この地域づくり協議会がうまく機能していないと考える。もともとは村としてまちづくり、地域づくりを行ってきたが、村当時の名残があり、なんでもかんでも行政がやってくれるといったイメージが強く残っているようで何か問題があればとりえず役場（現松本市役所四賀支所・地域づくりセンター）に電話して解決を図るという非主体的な性質があるように感じる。この協議会は、情報共有をする機会として最適だと考えるが、何のための組織なのか、そもそも必要なかそんなことを考えてしまう。もっと有効的な活動をするためにはどうしたらいいのか、事務局は頭を悩ましているところだ。協議会として地域の将来のためにできることはどういったことなのかを考える必要がある。

(2) 「四賀地区のこれからの考えるワークショップ」開催

さきほどの本研究の背景でも挙げたように、四賀地区へのIターン・Uターンによる移住者が多くいるが、新旧住民同士が互に関係を持つ機会がなく、交流が薄く、コミュニケーションがとれず、コミュニティの形成ができていないという課題に対し、

新旧住民の交流の場と地域の将来を考え合う場の創出を目指し、四賀地区地域づくり協議会地域振興活性化部会の事業である、「地域住民参加型（小・中学生等も含む）ワークショップ」として「四賀地区のこれからの考えるワークショップ」を企画した。このワークショップは昨年度中から松本大学専任講師の向井健氏にもコーディネーターとして加わっていただきながら準備を進めてきた。また、事前にワークショップ開催に向けた準備会を設けた。その準備会にはI・Uターンで移住した方、地元四賀で生まれ育った方たちに参加していただいた。その中で、あるIターン者の方から、四賀の人々の地域性として、「閉鎖的で自分の住む地域に対してネガティブすぎる。」という話も聞いた。

そういった意見から、移住者の視点から見た四賀地域の魅力を地元住民に再認識してもらうことも目的として取り組んだ。

第1回のワークショップは2016年6月19日（日）に移住者が運営するカフェ「ベレファ・カフェ」にて行った。この会では、参加者へのアンケートを実施し、そのアンケートへの回答を基に、四賀の魅力や課題等について意見を出し合った。

第2回は2016年8月27日（土）に移住者が運営する「bio cafe COUDO」という古民家カフェにて開催した。第1回のワークショップでは、農業をキーワードとする意見が多かったため、テーマを「四賀の農業を考える」とし、実際に四賀へ新規就農のためIターンした農家の方を講師に迎え、移住の経緯や四賀での農業生活を振り返ってのお話をいただき、その後、松本大学向井専任講師のコーディネーターのもと、参加者が意見を交わした。

今年度のワークショップの開催は2回に留まってしまったが、人々の出会いと交流のきっかけづくりの機会となり、参加者は満足した様子で会場を後にする様子が見受けられた。この事業を振り返って、今後の四賀の地域づくりにおいて移住者と地元住民とが力を合わせて取り組んでいくことが大事だと考え、今後、四賀へのI・Uターン移住者がどのくらいいるのか、どのような人がいるのかを調査していきたいと考える。また、持続可能な地域づくりを目指すうえで、そのような移住者が地域おこし協力隊のような地域の活性化に寄与し、地域の将来を担う人材の育成・発掘にもつながると考える。

以下は、参加者の皆さんに回答していただいたアンケートとワークショップで出た意見をまとめた資料である。

資料1)

四賀のこれからを考えるワークショップ参加者アンケート（移住者）

質問項目

- ① 名前
- ② 住所・電話番号
- ③ 出身地
- ④ 四賀へ来た時期・暮らしている期間
- ⑤ 職業・勤務地（四賀に来る前及び現在）
- ⑥ 家族構成
- ⑦ 加入している団体・グループ・組織等
- ⑧ 四賀に来たきっかけ（動機）
- ⑨ 四賀に来てからの暮らしや仕事について（四賀の魅力、良いこと・悪いこと）
- ⑩ これから四賀でできたら良いなと思うこと
- ⑪ その他なんでも気づいたこと等、ひと言。

資料2)

四賀のこれからを考えるワークショップ参加者アンケート（地元出身者）

質問項目

- ① 名前
- ② 住所・電話番号
- ③ 四賀以外で暮らしたことがある地域
- ④ 四賀で暮らしている期間
- ⑤ 職業・勤務地
- ⑥ 家族構成
- ⑦ 加入している団体・グループ・組織等
- ⑧ 移住者の方に期待すること
- ⑨ 四賀での暮らしや仕事について（良いこと・悪いこと）
- ⑩ これから四賀でできたら良いなと思うこと
- ⑪ その他なんでも気づいたこと等、ひと言。

資料3)

四賀のこれからを考えるワークショップ参加者アンケート（移住者）回答

◇出身地

北海道、東京、神奈川、石川、長野県北安曇郡松川村、愛知、大阪、福岡

◇四賀に来たきっかけ（動機）

- ・友人の案内
- ・結婚
- ・仕事
- ・有機農業を始めるにあたり、松本市周辺での地産地消を思い描いていた。市街地からも近く、有機農業に適した場所として四賀を選んだ。
- ・古民家暮らしに憧れて物件を探していたところ、たまたま四賀の物件が見つかった。
- ・当初はヤギのチーズが作りたくて大町以北のスキー場跡地などを探していたが、なかなか折り合わず、悩んでいた時、偶然「四賀ゆうきの里の会」の青木さんと間接的に知り合い、今の家を紹介してもらった。

◇四賀に来てからの暮らしや仕事について（四賀の魅力、良いこと、悪いこと）

<魅力・良いこと>

- ・養蚕を試験中（天蚕を有明穂高で学ぶ）
- ・大豆、醤油、味噌を作っている。
- ・昔ながらの伝統ある暮らしや文化が残っている
- ・水がおいしい
- ・昆虫、蝶、植物、鳥、動物の種類がすごく多い（生物多様性が高い）
- ・近所、地域の方々が優しい。あたたかい
- ・市街地からの程よい距離と、谷あいの田舎ののどかな風景
- ・農家なので、四季の移ろいを強く感じるのですが、四賀の自然に囲まれた暮らしは毎日飽きません。
- ・変に機能化されていない農業がよい。お米、野菜のおいしさを感じた。
- ・子育て環境として自然がいっぱいでとてもよい
- ・車なら松本・穂高へのアクセスが意外と良い。買い物ができる街が近い。
- ・自然が豊か
- ・静かなところがよい
- ・人との距離感がほどよい
- ・治安が良い

<悪いこと>

- ・意外と農薬使用が多い（ネオニコチノイドの使用）
- ・道路、川の中、畑にゴミが多い
- ・よそ者を敬遠排除している
- ・交通の不便さ（高校の送り迎え）

- ・小児科がなく、緊急時は多少不安
- ・寄ってけや辺りのネズミ捕りが許せない

資料4)

「四賀地区のこれからを考えるワークショップ」
(2016/6/19)
これから四賀でやってみたいこと等の意見 まとめ

■有機農業、有機野菜

- 1 本物のゆうきの里をつくりたい
- 2 無農薬・無化学肥料による農業があたりまえな地域にしたい
- 3 有機野菜の一本化とその販売
- 4 有機野菜を使った料理をすぐに食べられるような販売の方法を考える
- 5 作ったフルーツをドライフルーツなどにして販売
- 6 作った野菜を使って男女で合コン料理教室
- 7 薬草について勉強して販売につなげる
- 8 東京オリンピックにむけた有機野菜づくり (四賀だけでなく。外国人向けも)
- 9 有機農業のCMを作る
- 10 有機の考え方を共有
- 11 生産の工夫、販売の工夫 (有機を本物に)
- 12 遊休農地を活用した日帰り農業体験
- 13 有機野菜 (畑) オーナー事業

■林業、里山の活用、自然エネルギー

- 1 松枯れの松でぼかし・灰・炭を作り、土壌改良剤として使っていく
- 2 農薬空中散布は廃止する
- 3 松枯れ伐採後の里山で馬やアルパカを飼って牧場にする
- 4 松枯れを防いで未来に美しい自然を残す
- 5 山の木の総合利用 (クラフト材、薪材、燃料) による市内との交流
- 6 松枯れの木を使った松茸山荘の再建 (木質バイオマス)
- 7 ヤギとの散歩
- 8 山の木を使ってアドベンチャー (アスレチック?) を作る
- 9 安全なハイキングルートをつくってイベントの開催
- 10 トレラン・トライアルコースの整備
- 11 トレッキング

- 12 四賀一周ロードレース
- 13 林道をスキー・バギー・MTBで走る
- 14 遊歩道の整備、富士塚山から松茸山荘までの遊歩道を作る
- 15 心と体を癒す里山リトリート、温泉利用
- 16 若者が来るようにキャンプ場をつくる

■自然環境保護

- 1 蛍やめずらしい蝶が普通に飛びまわる地域に

■地域ブランド

- 1 オーガニック、パーマカルチャーの先端 (IT活用とか) 地域
- 2 錦織部を織物の里に
- 3 四賀のゆるキャラを作る
- 4 会田宿の街並みを活かした活性化
- 5 四賀のアンテナショップ、街や都会で四賀の物を販売していく
- 6 四賀マルシェを作る (農産物販売 等)
- 7 夜飲める場所を作る
- 8 カフェの村 (カフェスタンプラリー)

■クラフト

- 1 工芸の5月を四賀に呼び込みたい
- 2 R143クラフト街道、クラフトフェアin四賀
- 3 四賀をクラフトフェアの第2会場に

■歴史・文化・遺産

- 1 殿村遺跡の研究・保存
- 2 殿村遺跡を活用。松本市北部の歩いて回れる歴史・文化による地域づくり

■移住者支援、交流、空き家問題

- 1 移住者の方の話を聞きたい、話したい
- 2 空き家をたくさん提供してもらい移住者に提供
- 3 宿泊施設を増やす

■医療・福祉・教育・子育て

- 1 野外保育、森のようちえん構想
- 2 四賀だけにしかない保育園
- 3 自然を活かした野性的な保育
- 4 会田病院を地域の宝にして地域に暮らす人々の命と健康を守る拠点に
- 5 小児科がほしい

■防災

- 1 災害時に孤立しても自立できる地域電力網の確立

資料5)

**四賀地区地域づくり協議会 地域振興活性化部
会事業**

**第2回四賀地区のこれからを考えるワークショップ
(2016/8/27)**

●テーマ：「四賀の農業を考える」

●参加者からの意見

1. 自家の野菜（化学肥料+少しの農薬）でも美味しいと思うが女房は「有機」は味が違うと言っている
この感覚を地域の人々に味わってもらえば「有機」に対する地元の人の認識も変わるのか?!
2. 地元の人たちに「有機肥料の作り方」を教えると「有機」が広がる?それで売上が上がるのではないか?
3. 「JAS法の有機」の定義は今の時代に適応しているのか?
4. 旬の野菜を使った期間限定レストラン（夏のみでも）をやりたい
5. 品評会を開き、野菜ソムリエに味の評価をしてもらう
6. 特産品は考えられないか。四賀に合った四賀ならではの産物（多品種生産と一品生産）
7. 野菜だけのBBQイベントの開催
8. 畜産、果樹も含めた農業の推進
9. 安全・安心な野菜の栽培と販売
10. お客が産物を取りに来てくれる仕組みを作りたい（CSAのような）
11. 野菜の加工品を作って冬の時期の収入にしていきたい
12. 安心・安全でおいしい野菜を自分で作り、自分の口にする。自分の食べるものを自分で作るといううきのかたちを広めたい
13. ゆうきの基準・水準の認識を地区内で考えたい
14. ゆうきの区別、JAS認定について
15. 四賀の農業の情報を知らせ、有機を広めていきたい
16. 有機野菜を知る機会をつくる
17. 有機野菜の勉強。価格・旬などを自分で知る機会があれば良い
18. シェラリゾートホテルの金沢シェフとの食

事会。クラインガルテン（交流センター）
でやりたい

19. レストランを四賀での観光の目玉にした
い
20. 農薬を使っちゃいけない理由は?
→ 除草剤、殺虫剤というのは微生物を殺す
21. 有機野菜はアトピーや甲状腺がん等を治すという医薬的証明がある。野菜嫌いも直るかも。
22. 空き家情報の明確化と新規就農者増大。
（青木村の事例を参考に）
23. 移住促進や人口増加のため体験型農業
をやりたい。

写真1



写真2



写真1・写真2

「第1回四賀地区のこれからを考えるワークショップ」
平成28年6月19日（日） ペレファ・カフェ

写真3



写真4



写真3・写真4

「第2回四賀地区のこれからを考えるワークショップ」
平成28年8月27日(土) bio cafe COUDO

(3) 「四賀にきましょ実行委員会」への参画

四賀への移住者が地元住民から目をひききかけの一つとなったのは、「四賀にきましょ実行委員会」という四賀の魅力が地区内外へ発信することを目指し、活動しているグループの存在が大きいだらう。この活動団体は、里山である四賀の魅力に体験的に触れることができる里山文化祭「四賀にきましょ」というイベントを開催してきた。今年度が4年目で5回目の開催であるが、今年度中に行われた実行委員会では今年開催しないと意見がまとまっていた。その経緯とすれば、前回は廃校となった旧中川小学校を活用して開催したのだが、約700人の集客を集め、人員不足もあったのか、実行委員会の負担が大きかったようで、このイベントをなんのためにやっているのか、こんなに苦労して続ける必要があるのかといった意見があがっていたようで、「四賀にきましょ実行委員会」が発足した当初からいたメンバー

間での意見・思いの相違から実行委員会自体が消滅しかけていた。しかし、地元の住民から「四賀にきましょ」が認知されてきており、規模を縮小してでも継続して開催してほしいという期待の声が多かった。そこで、私も実行委員会事務局として参加し、四賀地区地域づくり協議会との共同事業とすることを呼びかけ、地域づくりセンター職員をはじめ、行政にも協力を仰いだ。また、四賀にきましょ実行委員会事務局という立場で、従来の移住者中心で形成されたメンバーと新たに地元の住民を巻き込み、実行委員会を新たに組織した。この点に関しては、新旧の住民をつなぐきっかけになれたと考える。

そして、2016年10月22日の開催日には虚空蔵山米かつぎマラソン大会や四賀支所JAまつりと同日開催で行われた。米かつぎマラソンは、お米をかつぎながら、四賀の名所である立峠や地域の方から会田富士と呼ばれる親しみのある虚空蔵山を走るマラソン大会である。この行事を地域外の方からは奇祭だと言われるが、参加者の中にはこの大会の開催を楽しみにしている方も多いうだ。主催は四賀元気プロジェクトという地域の地域を盛り上げようと活動する団体で、商工会議所四賀支所も関わる。それらの行事を同日に重ねたことで、昨年旧中川小学校で開催した時ほどは来場者はなかったが、四賀地域内外からの多くの人々で地域内がにぎわう機会となった。

写真5



写真5 「四賀にきましょ 四賀クラフトまつり」
平成28年10月22日(土) ふるさと公園しが

写真6



写真6 「虚空蔵山米かつぎマラソン大会」
平成28年10月22日(土) 松本市役所四賀支所前

資料6)

四賀にきましょ「四賀クラフトまつり」意見・感想等

■駐車場や会場までの案内表示が全く無く、地元四賀の人は場所を知っているかもしれないが、地区外の人にはまったくわからない。案内看板でも出してほしい。

■出店一覧表はあるかという問い合わせを本部で受けた。会場出店配置図は必要。

→出店配置図等を載せた当日用のパンフを作成していたが、出店者が当日ギリギリまで増えたため、出店者の配置を決めることができなかった。出店者募集を早い時期から行い、募集締切日をしっかり決める必要がある。またテントの大きさやどのくらいのブースの広さになるのか事前に把握する必要がある。

■公園の芝生を囲むように出店ブースを設置したが、来場者の入口が無かった。またブースの向きを統一させたほうが良いのでは。

■芝生中央の来場者用のテント・イス・テーブルを活用してくれている方が多くいて良かった。

■米かつぎマラソンや農協まつりとの同時開催によって集客が増えたと思う。地元四賀の人に足を運んでもらうには良いと思う。

■町会長会議でお願いされたら行くしかないと思って来てくれた町会長さんがいた。

資料7)

四賀にきましょ「四賀クラフトまつり」事業企画書

松本大学地域総合研究センター特別調査研究員
松本市地域づくりインターン 四賀地区担当
丸山 裕也

1. 趣旨・経緯

四賀地区の現状として、人口減少や少子高齢化が進行し、地域の将来を担う若手の人材確保が困難となっている現状がある。その一方、里山四賀での暮らしを魅力に感じ、I・Uターンする移住者が増加してきている。そのような移住者の方たちが中心となって組織する「四賀にきましょ」は四賀での暮らしや文化の発信の場となっていた。昨年度は、廃校した旧中川小学校を活用し、「里山手しごと文化祭」が開催され、県内外から約700人もの集客があり、四賀地区に大きな活気をもたらすものとなった。

だが、今年度の「四賀にきましょ」は、実行委員会の手不足などの諸理由により、開催しないことが決まっていた。しかしながら、今年度も「四賀にきましょ」の開催を期待する人たちも多く、規模を縮小してでも継続することはできないかという声も数多く寄せられている。

そのような経緯から、新たに地域づくり協議会が核となり、四賀地区の地域住民と共に「四賀クラフトまつり」として企画・開催をすることで、四賀の暮らしと文化の継続的発信を支援できたらと考え、本事業企画を提案するに至った。

2. 目的

- (1) 四賀への移住者と四賀出身の地元地域住民の方々のつながりを図る機会とする。
- (2) 四賀でクラフトや手工芸など様々な活動をしている方の発表の場とする。
- (3) 移住者が感じる四賀の魅力や地元地域住民の方々の共通認識とする。
- (4) 地域内外への「クラフトの街 四賀」という地域像の定着を図る。(クラフトフェア第2会場の構想)

3. 日時

平成28年10月22日(土) 10:00~17:00

4. 会場

ふるさと公園しが、松本市役所四賀支所及び四賀地区内飲食店等

5. 出店者及び内容

No.	出店者	内容	会場
1	四賀林研グループ	灰焼きおやき	ふるさと公園
2	石塚 真智子	茶道	ふるさと公園
3	手塚 詠奈	着物着付け	支所301(和室)
4	木下 旬平	木工クラフト	ふるさと公園
5	降旗 こずえ	ミサンガ、カフェ	ふるさと公園
6	伴在 由里、松村 爽	アーティシャルフラワー	ふるさと公園
7	横内 裕子	草木染め	ふるさと公園
8	赤澤 礼子	リンパマッサージ	支所ホワイエ
9	Kintoku 徳久 欣	薪ストーブ展示、ワークショップ	ふるさと公園
10	靴工房リブ 青木 浩	シューズ販売	ふるさと公園
11	四賀アイアイ	パンの販売、陶芸作品販売	ふるさと公園
12	手作り靴のニイヨル	シューズ販売	ふるさと公園
13	寄ってけや	チヂミ、ヒビンバ弁当販売	ふるさと公園
14	松村 京子	小次郎餅	ふるさと公園
15	丸山 裕也(松本大学)	カフェ、キッズ広場	ふるさと公園

6. 実施主体

<主催>

四賀にきましょ実行委員会 実行委員長 松村京子

<共催>

四賀地区地域づくり協議会 地域振興活性化部会 部会長 丸山則行

事務局
松本市役所四賀地区地域づくりセンター
TEL 64-3111
担当 丸山 裕也
TEL 080-1142-4689 (携帯)

資料8)

平成28年度 四賀地区地域づくり協議会関係取り組み事業

開催日	事業	内容	場所
<2016年> 4月11日(月) 5月11日(水) 7月11日(月) 10月11日(火) 11月11日(金) <2017年> 1月11日(水)	あいさつ運動の実施	四賀小・会田中学校生徒の登校時に合わせ、あいさつを交わし、子どもたちとの交流を図る。	四賀支所・ 四賀小前・ 会田新町信号機 附近
4月13日(水)	第1回役員会	・平成28年度事業計画・予算について ・協議会規約について	四賀支所 303会議室
4月22日(金)	第1回創蓄省エネルギー化 モデル構想事業研究会	・本研究会の名称について ・平成27年度の状況報告 ・平成28年度の取り組みについて	四賀支所 303会議室
5月12日(木)	平成28年度四賀地区地域 づくり協議会総会	・平成28年度役員について ・平成27年度事業報告・決算報告 ・平成28年度事業計画・予算について ・規約の改正について	四賀支所 ピナスホール
6月14日(火)	第2回里活プロジェクト	・今年度の取り組みについて ・取り組みにおける分類について ・チーム(班)の活動について	四賀支所 302会議室
6月15日(水)	第1回生活安全環境保全部会	・平成28年度事業について ・地域公共交通機関利用促進の検討	四賀支所 302会議室
6月19日(日)	地域振興活性化部会事業 地域住民参加型(小・中学 生等を含む)ワークショップ 「第1回四賀地区のこれから を考えるワークショップ」	・本事業の趣旨・経緯説明 ・アンケート記入 ・自己紹介 ・ワークショップ ・今後の進め方について	ペレファ・カフェ
6月22日(水)	第1回福祉健康部会(四賀 地区地域ケア会議)	・平成28年度事業について ・四賀地区では70代は高齢者と思わ ない・言わない運動の推進 ・子育て支援・健康づくり・障害者の現状 の課題と把握について	四賀支所 303会議室
7月6日(水)	第1回地域振興活性化部会	・平成28年度事業について ・地域住民参加型ワークショップの開催 ・プロジェクトチームでの対応事業について ・創蓄省エネルギー化モデル構想について	四賀支所 303会議室
8月23日(火)	第1回文化財保存活用事業	・史跡ゾーン整備事業について ・プロジェクトチームの組織について ・事業の進め方について	四賀支所 第2応接室

8月27日(土)	地域振興活性化部会事業 地域住民参加型(小・中学生等を含む)ワークショップ 「第2回四賀地区のこれからを考えるワークショップ」	<ul style="list-style-type: none"> ・本事業の趣旨説明 ・前回の振り返りと今回のテーマについて ・自己紹介 ・ワークショップ 	bio cafe COUDO
8月31日(水)	第2回役員会	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴミを捨てさせない運動について ・あいさつ運動の実施について ・拠点づくりについて ・平和の集いについて 	四賀支所 303会議室
9月17日(土)	ゴミを捨てさせない運動の実施	地域住民によるゴミ拾い活動により、ゴミのポイ捨てや不法投棄の防止を啓発する	四賀地区中川(風越トンネル附近)
9月21日(水)	第3回役員会	地域包括ケアシステム推進事業について	四賀支所 302会議室
9月26日(月)	第2回文化財保存活用事業	<ul style="list-style-type: none"> ・業者選定について ・看板にのせるものの検討 ・パンフレットにのせるものの検討 	四賀支所 第2応接室
9月28日(水)	第1回ホームページ立上げ 検討会議	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページに載せる項目について ・今後の進め方について 	四賀支所 第2応接室
10月4日(火)	第2回福祉健康部会(四賀地区地域ケア会議)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域包括ケアシステムについて ・川柳について ・あいさつ運動について 	四賀支所 大会議室
10月12日(水)	第2回地域振興活性化部会	<ul style="list-style-type: none"> ・地域医療フォーラムの開催について ・イベントの協力について ・地域住民参加型ワークショップについて ・拠点づくりについて ・あいさつ運動の実施について 	四賀支所 303会議室
10月19日(水)	第1回ホームページ立上げ 事業会議	<ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクトチームの組織について ・今後の進め方・スケジュールについて 	四賀支所 第2応接室
10月31日(月)	第3回里活プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・地域づくり課からの報告 ・報告と課題(松枯れ材活用、四賀の魅力発信、拠点づくり) 	四賀支所 302会議室
11月30日(水)	第3回文化財保存活用事業	・看板・パンフレット内容の確認について	四賀支所 第2応接室
12月21日(水)	第4回文化財保存活用事業	・パンフレット内容の確認について	四賀支所 第2応接室
<2017年> 1月17日(火)	第5回文化財保存活用事業	・パンフレット内容の確認について	四賀支所 第2応接室
1月19日(木)	第3回ホームページ立上げ 事業会議	・ホームページ画面確認について	四賀支所 第2応接室
2月1日(水)	第4回里活プロジェク	<ul style="list-style-type: none"> ・拠点づくりについて ・松枯れについて 	四賀支所 303会議室

2月23日(木)	第4回ホームページ立上げ 事業会議	・ ホームページ内容検討について	四賀支所 第2応接室
3月13日(月)	福島の子どもの卒業を 祝う会	松本子ども留学の会田中学校生徒の卒業 祝い (餅つき大会)	五常地区 上郷常会
3月23日(木)	第5回ホームページ立上げ 事業会議	・ ホームページ画面確認について	四賀支所 第2応接室
3月25日(土)	四賀地区地域交通を考える つどい	・ 地域交通の現状と取り組みについて ・ アンケート結果について ・ フリートーク	四賀支所 303会議室
3月28日(火)	第4回役員会	・ 地域包括ケアシステムについて ・ 全体事業報告 ・ 平成29年度役員体制検討 ・ 平成28年度・29年度事業について ・ 平成28年度決算見込み ・ 加入団体について	四賀支所 302会議室

写真7



「平成28年度四賀地区地域づくり協議会総会」
平成28年5月12日(木) 松本市役所四賀支所ピナ
スホール

(4) 地域の拠点「里の駅四賀マルシェ」の提案

昨年度、四賀で取り組む中で、地域住民から「地域の中に人が集い、地域づくりを話し合う場がない。地域の拠点を作りたい」という意見が持ち上がっていた。その背景を推察するに、四賀地域内の商店街や飲食店が人の高齢化や担い手の不足により衰退し、これまで飲食ができた店も閉まってしまい、商店がなくなってしまったことから、人々が集う場所がなくなり、地域内外の人々が出会う機会が少なく、寂しいコミュニティとなっていると考える。そういった課題から、地域住民と共に地域の拠点になり得そうな場所を探す中で、立地的条件や活用方法に見合っ

た場所が見つかった。そこは以前、農協のJA四賀支所が管理していた簡易型スーパーであり、日用品や青果や生肉、鮮魚などの販売を行っていた。ここは数年前に閉店し、現在は、一部JAの事務所として使っているだけで、スーパーであった広いスペースは何も使っておらず、空いたままであった。そこを、地域づくり協議会長であり、四賀地区町会連合会会長である大澤好市氏からJAに貸してほしいと依頼したところ、JA側は地域のために使っていただけるなら、ぜひ使ってほしいと言ってくれたのだ。そこで、私が旧JA販売所をどのようにして活用していくかをまとめた事業計画書を作成し、里の駅「四賀マルシェ」を核とする地域づくりを企画提案させていただいた。この企画書を作成するにあたり、私が学生時代にまちづくりに携わった松本城下町の上土商店街での活動経験を参考に、コミュニティカフェをベースとする拠点づくりを目指した。この企画書を持って、JAへ改めて依頼に行き、借用について承諾を得た。そして、地域づくり協議会としてどのように運営していくかを考えていこうとしたのだが、JA側からは使用料として月5万円はいただきたいと申し出てきたため、地域づくり協議会の予算不足のためこの話は断念せざるを得なくなってしまった。

里の駅四賀マルシェ創設による地域内外をつなぐ様々な機能を集約して利用者に提供する場づくりが必要となる。

資料9)

四賀地区における地域拠点創設による地域づくり事業企画書

1. 企画名とテーマ
 (1) 企画名
 里の駅「四賀マルシェ」を核とする地域づくり
 (店舗の名称：里の駅「四賀マルシェ」)
 (2) テーマ
 誰もが集う憩いの居場所づくり (サード・プレイス)

2. 経緯
 超少子高齢化の進行や若者の東京圏への一極集中型の人口流出等により、地方では地域の将来を担う若手の人材確保が困難となっている。特に、中山間地の農山村では、農林業の担い手不足に伴う耕作放棄地の増大や集落機能の維持の困難が大きな地域課題となってきた。
 私たちが暮らす松本市四賀地区においても、上記に見たような課題を抱えており、それらの解決策を模索し、「持続可能な地域づくり」に取り組んでいくことが課題になっている。
 そうした中で、四賀地区地域づくり協議会では、地域の誰もが気軽に集うことができ、地域のことについて考え合うことのできる地域拠点を創設することができないかと考えた。そのように人々が愛着を持ち、人と人との交流が育まれるような地域拠点を「サード・プレイス」と呼び、そういった地域での暮らしの中で創造性を持つ場が定着して位置づいていくことがこれからの地域づくりにおいて重要になってくるのではないだろうか。
 そこで、四賀地区の拠点創設による誰もが集う憩いの場所づくりを目指し、休憩機能や地域振興のための情報発信機能を持ち合わせた「道の駅」を参考に四賀地区独自の地域性を活かした道の駅として「里の駅「四賀マルシェ」」を核とする地域づくりを推進すべく事業企画の提案に至った。

3. 目標
 (1) 到達目標 (資料1)
 会田地区の空き店舗を活用し、地域拠点 (里の駅「四賀マルシェ」) の創設を通して、四賀地区の中に憩いとにぎわいを創出し、地域資源の活用と連携を通して地域コミュニティの活性化につなげる。
 (2) 里の駅「四賀マルシェ」に付与する4つの機能 (資料2)
 地域拠点としての里の駅「四賀マルシェ」には、次のような4つの機能を付与することで、子ども、若者、育児中の親、お年寄りなど地区内外の住民を問わず、多種多様な人と人との出会いと交流の場として、四賀地区のサード・プレイスとして位置付ける。
 ① 日常生活の憩いの場
 ・四賀地区の住民スタッフによるコミュニティカフェの運営
 ・会議や講座の会場としての活用→ 子どもから若者、お年寄りまでの世代間の交流拠点

5. 実施主体と管理運営体制について
 (1) 実施主体
 四賀地区地域づくり協議会
 (2) 管理責任者
 四賀地区地域づくり協議会長 大澤好市
 (3) 管理運営体制
 ① 運営資金について
 平成28年度においての本事業運営資金は四賀地区地域づくり協議会 (以下、協議会) の地域づくり交付金を運用し、収支会計について協議会及びその他関係機関に報告する。(市補助金やその他補助交付金の活用も検討)

企画担当
 松本市地域づくりインターン四賀地区担当
 松本大学地域総合研究センター特別調査研究員
 丸山 裕也
 Mail : yuyua.m814@gmail.com
 電話 : 080-1142-4689 (携帯)

② 非日常の催しの場
 ・「四賀マルシェ」の開催→ 農産物、クラブ、薪等の地域直売所
 ・スタンプラリー等のイベント開催→ 四賀地区内のカフェ、飲食店、企業等との連携

③ 教育・福祉支援の場
 ・寺子屋の開催→ 子どもたちの学習支援や高齢者の介護予防
 ・キッズ・スペースの整備→ 子育て支援、子どもの見守り
 ・オレンジカフェの開催→ 認知症サポート

④ 四賀の魅力発信の場
 ・四賀地区への来訪者を対象とした歴史・文化等の紹介、発信
 ・移住検討者を対象とした地域資源、空き家、人材などの情報提供
 ・広報紙作成や SNS 活用による情報発信

4. 里の駅「四賀マルシェ」を進めていく上での役割分担と実施計画
 (1) プロジェクト推進に向けた地域づくり協議会としての主な役割分担
【全体】
 里の駅「四賀マルシェ」の全体的統括運営
【各部署】
 <地域振興活性化部会 (里活プロジェクト)>
 ②四賀マルシェの運営、イベントの開催、③寺子屋の開催、④情報発信
 <福祉健康部会>
 ③寺子屋の開催、キッズスペースの整備、オレンジカフェの開催
 <生活安全環境保全部会 (里活プロジェクト)>
 ②四賀マルシェの運営、④移住検討者への空き家、人材等の情報提供

(2) 実施計画
【平成28年度】 里の駅「四賀マルシェ」の実現に向けた準備

7月	事業企画案検討、地域づくり協議会打ち合わせ (26日)
8月	各機関への企画提案 (松本ハイランド農協、松本市役所地域づくり課 等)
9月	事業企画に関する検討・手続き、賃貸借契約締結 (店舗の視察、店舗活用に伴う改修箇所検討 等)
2月	企画の見直しと修正
3月	来年度の運営にむけて検討

【平成29年度】 里の駅「四賀マルシェ」の試験的運営の開始
【平成30年度~】 里の駅「四賀マルシェ」の本格的実施

四賀地区地域づくり協議会
里の駅「四賀マルシェ」を核とする地域づくり
 地域資源との連携によるコーディネート機能と役割

四賀地区地域づくり協議会
里の駅「四賀マルシェ」を核とする地域づくり
 ◎誰もが集う憩いの居場所(サードプレイス)の4つの機能

<p>① 日常生活の憩いの場(全体) ・地域住民によるコミュニティカフェの運営 ・会議や講座の会場として活用 (子ども、若者、お年寄り)の世代間交流</p>	<p>② 非日常の催しの場 (地域振興活性化・生活安全環境保全部会、里活プロジェクト) ・「四賀マルシェ」の開催 (農産物・クラブ・薪等の販売) 地区内のカフェ等との連携 (スタンプラリー等のイベント)</p>
<p>③ 教育・福祉支援の場 (地域振興活性化・福祉健康部会) ・寺子屋の開催(学習支援) ・キッズスペースの整備(子育て支援、子どもの見守り) ・オレンジカフェの開催(認知症サポート)</p>	<p>④ 四賀の魅力発信の場 (地域振興活性化・生活安全環境保全部会) ・来訪者への歴史・文化等の紹介 ・移住検討者への地域資源、空き家、人材等の情報提供 ・広報紙作成、SNS活用による情報発信</p>

人と人との出会いと交流の場

3. 事業の取り組みからの考察と成果・課題

平成27年度から28年度まで四賀地区に入り、地域住民と交流を深めつつ、調査研究を進めてきたわけだが、なかなか目に見えるような形で地域が変わったという印象は受けづらいというのが正直な感想である。しかし、2年間の活動の中で、四賀地区は地域の魅力がたくさんあると感じ、そういった地域だからこそ東京や神奈川などをはじめとする都会や県内外から四賀へ移住してくる方も多いのだろう。そういった移住者である新住民と元々四賀に生まれ育った旧住民との関係を持たせるべく、「四賀地区のこれからの考えるワークショップ」や「四賀にきましょ」のイベントの開催を通じ、新旧住民の出会いのきっかけづくりにはなったであろう。そして、移住者が見たもの、感じたものといった四賀の魅力を旧住民との共通認識として捉えられるような機会や場づくりができたことは、今後の四賀の持続可能な地域づくりに向けては大きな成果だろう。しかし、まだまだきっかけづくりでしかない部分も多く、地域住民が主体となって地域の将来を見据えながら、ワークショップや地域のイベントの開催をはじめとして、様々な活動に取り組むことが重要であり、四賀地区の将来像を住民自身が共通認識として持ち、地域のことについて考え合い、話し合う場が必要であり、自分たちが暮らす地域について学習する機会が大切である。

4. 今後の展望

来年度をもって、私自身の地域づくりインターンシップ戦略事業における契約任期が終了となるが、来年度以降の展望を述べたい。まずは、私個人の思いとして、これまでの四賀地区での活動のなかで多くの人々に出会い、たくさんの人脈ができ、人と人との関わりの大切さを改めて強く感じた。そして、四賀地域の将来を見据えたうえでの展望は、これまで2年間の取り組みの中で、地域住民のニーズに対して課題解決すべく、I・Uターンによる移住者と地元で昔から暮らす住民同士が力を合わせ、持続可能な地域を目指しながら、地域課題の解決へ向け、取り組んでいくことが大事であろうと感じた。今後においても自分自身が新旧問わずの地域住民の方々との交流を図りながら、地域の人々をつないでいくコーディネーターの役割を担っていくらと考えている。

資料10)

「四賀地区の将来像描く 新旧住民が意見交換」
(市民タイムス 平成28年6月21日)

平成28年(2016年)6月21日 火曜日 (18)



四賀地区の将来像描く 新旧住民が意見交換

松本市四賀地区に古くから住み、都市部から移住した人々が、19日、同市七風のベテランやUターン、Iターンで移住した人々が参加して意見交換会を開いた。地域の魅力を共有し、四賀の将来について話し合う場を、ワークショップ形式で設けた。

「これから四賀でしてみたいことについて意見を交わす参加者たち」

「山田さん、農業や林業を営む人が増えるといいですね。また、地域づくりにも積極的に参加してほしいです。四賀地区は、特長を活かして、地域活性化を図りたいですね。ワークショップを通じて、お互いの意見を交換し、協力して地域づくりを進めたいです。」

「四賀地区は、近年、移住者が増えています。地域活性化のために、移住者と地元住民の交流を促進したいです。ワークショップを通じて、お互いの意見を交換し、協力して地域づくりを進めたいです。」

(北原 哲)

資料11)

「移住者と以前からの住民 意見交換 四賀の良さどう高める」
(信濃毎日新聞 平成28年6月22日)

2016年(平成28年)6月22日 水曜日

移住者と以前からの住民 意見交換

四賀の良さどう高める 松本

「四賀地区のこれからの考えるワークショップ」で意見を出し合う参加者

松本市四賀地区の地元の住民、IターンやUターンで移住した人が意見交換会を開き、地域の魅力を共有し、四賀の将来について話し合う場を、ワークショップ形式で設けた。住民が主体的に地域の課題を話し、地域活性化の方向性を決めた。昨年設立した四賀地区の地域づくり協議会が主催した。

「ワークショップは、地域活性化の第一歩です。移住者と地元住民の交流を促進し、お互いの意見を交換し、協力して地域づくりを進めたいです。」

「四賀地区は、近年、移住者が増えています。地域活性化のために、移住者と地元住民の交流を促進したいです。ワークショップを通じて、お互いの意見を交換し、協力して地域づくりを進めたいです。」

(北原 哲)

資料12)

「農業生かして四賀に活力 住民がワークショップ」
(市民タイムス 平成28年8月29日)



農業を生かした地域の活性化について意見を交わす参加者たち

資料14)

「四賀でクラフトまつり 22日手工芸や特産品PR」
(市民タイムス 平成28年10月14日)

松本市内
(第3種郵便物認可)
松本市四賀地区の手工芸作家ら約20人が、22日午前10時から、市四賀支所前にあるふもと公園で開催される「四賀を拠点に活動する手工芸作家ら約20人の販売、野外で茶道を楽しむ野だてなどもあり、靴や木工品、草木染などのプレスが出る。」
イベントは昨年も実施された。実行委員長の松村京子さんは「四賀の魅力をたくさんの人に知ってもらえる機会にしたい」と話している。090・1854・9619へ。
(北原 哲)

四賀で「クラフトまつり」 22日手工芸や特産品PR



イベントをPRするチラシ

資料13)

「地域に根差した農業議論活発に 四賀のこれからを考える」
(タウン情報 平成28年9月3日)

松本市四賀地区に「四賀のこれからを考える」をテーマに議論され、地域の未来を考える。この回は8月27日、「bio cafe COUD」(中川)で開催された。同地区地域づくりに根差した農業の在り方を考えるスタートルインに呼び掛けられた。率直に意見を話し合い、地域の未来を考えていく。ワークショップは年度内にあと数回開催予定。いくつかのテーマで地域振興の手法を多角的に探っていく。

地域に根差した
農業議論活発に
「四賀のこれからを考える」

四賀地区の農業の在り方を話し合う参加者